



令和2・3年度 研究テーマ

・サブテーマ



1. 研究テーマ
2. 昨年度の研究
3. 今年度のサブテーマ
4. 研究に取り組む視点



- 1. 研究テーマ**
2. 昨年度の研究
3. 今年度のサブテーマ
4. 研究に取り組む視点



R01～R04研究テーマ

地域づくりの担い手育成に向けた 行政と住民の連携・協働

事業の連携
・ネットワーク化

住民の社会参画促進

H23～26
新しい公共の担い手を育む社会教育行政の在り方

行政間連携と地域住民との協働

H27～28
人口減少問題に対応した社会教育行政の在り方

「学び」と「活動」の循環

H29～30
地方創生の時代における社会教育行政の在り方



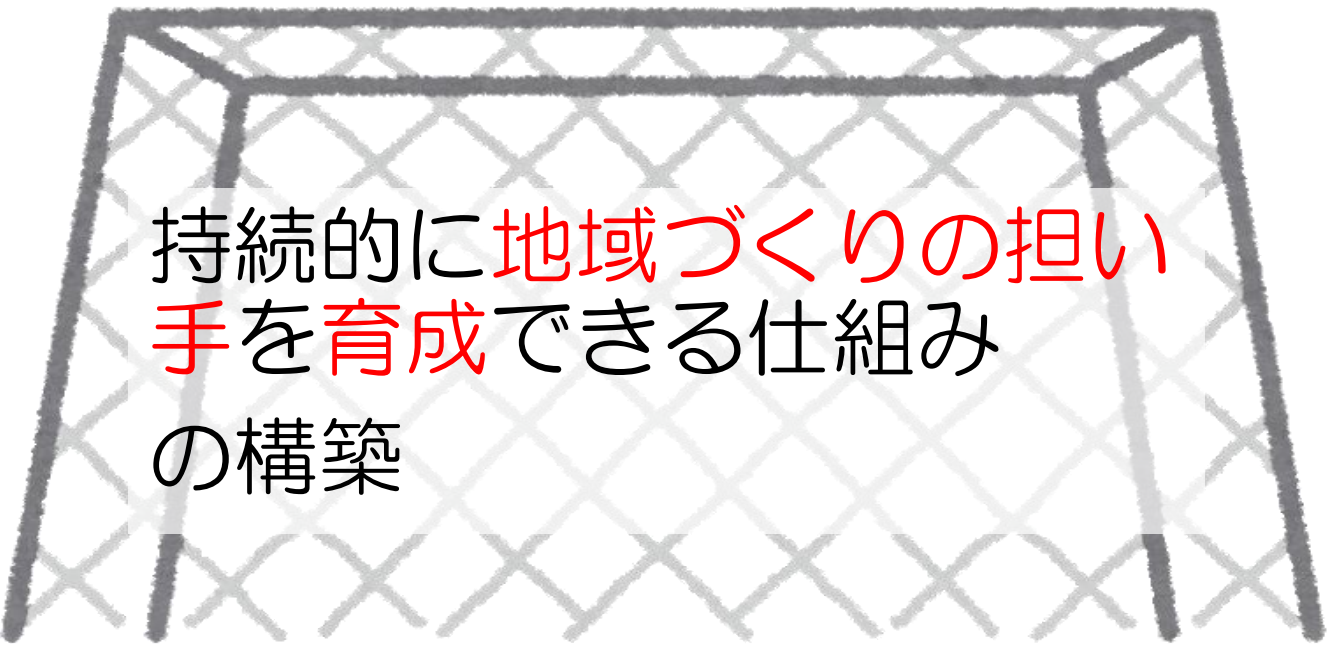
研究テーマの設定理由

地域づくりの担い手育成に向けた
行政と住民の連携・協働

地域づくりの担い
手育成は行政だけ
ではできない！



行政と住民との連携・協働

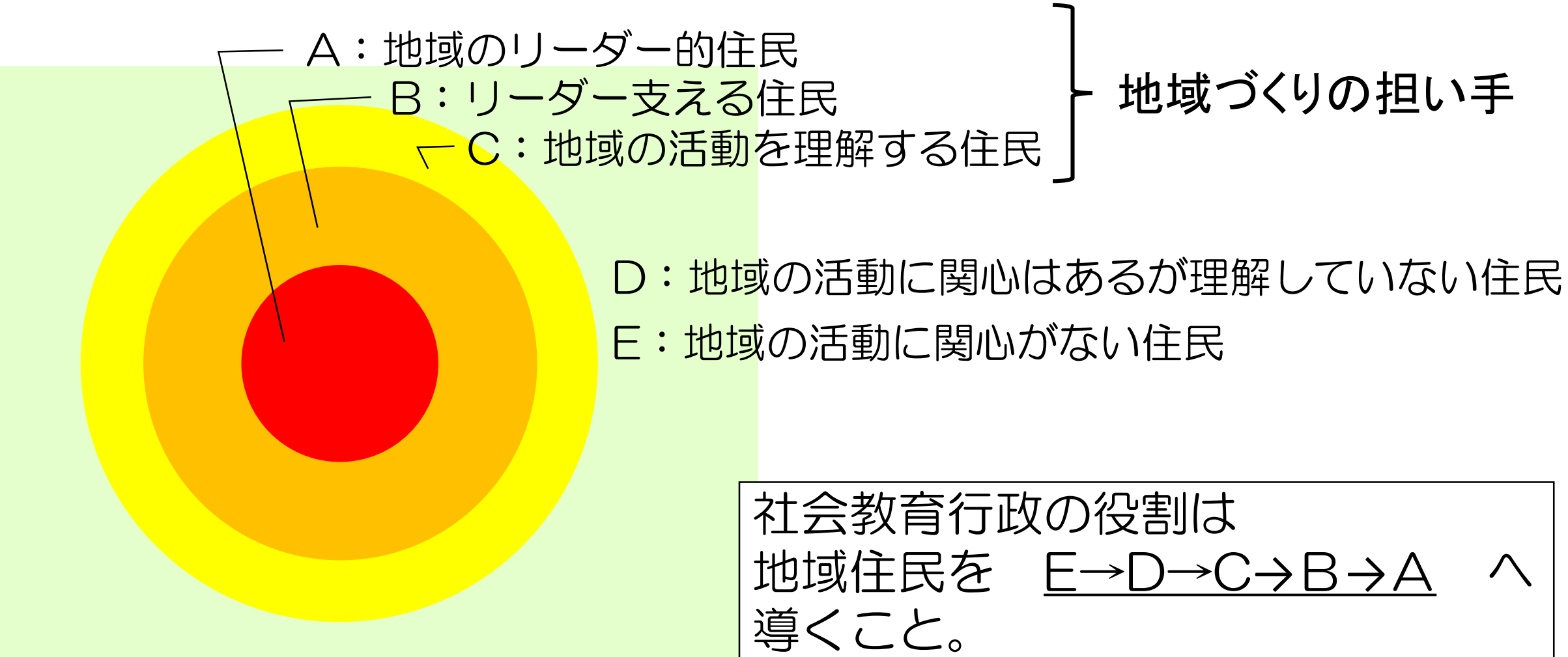


持続的に地域づくりの担い
手を育成できる仕組み
の構築

様々な切り口(視点)による具体的な課題や実践から、地域づくりの担い手育成につながる「行政と住民の連携・協働」を促すための社会教育行政(職員)の役割について追究する。



担い手の捉え方

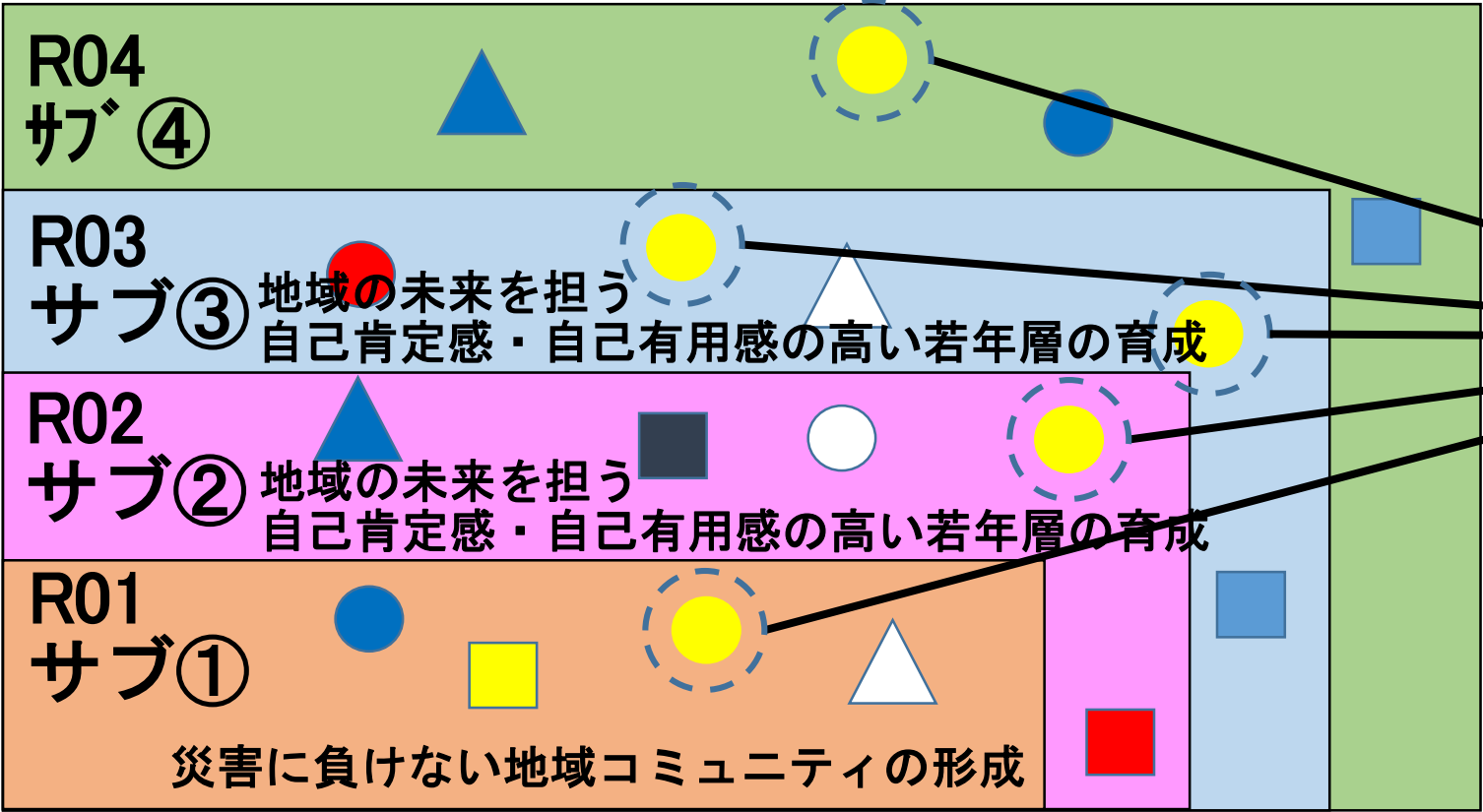




4年間の研究の流れ

持続的に育成するシステムの構築

サブテーマを切り口として「役割」の洗い出す



行政と住民の連携・協働の促進

共通する社会教育行政職員の役割

地域づくりの担い手育成



1. 研究テーマ
- 2. 昨年度の研究**
3. 今年度のサブテーマ
4. 研究に取り組む視点



昨年度の研究の結果について

災害に負けない地域コミュニティの形成



災害に負けない地域コミュニティとは？

社会教育行政(職員)の役割は？



社会教育セミナー

実践交流セミナー

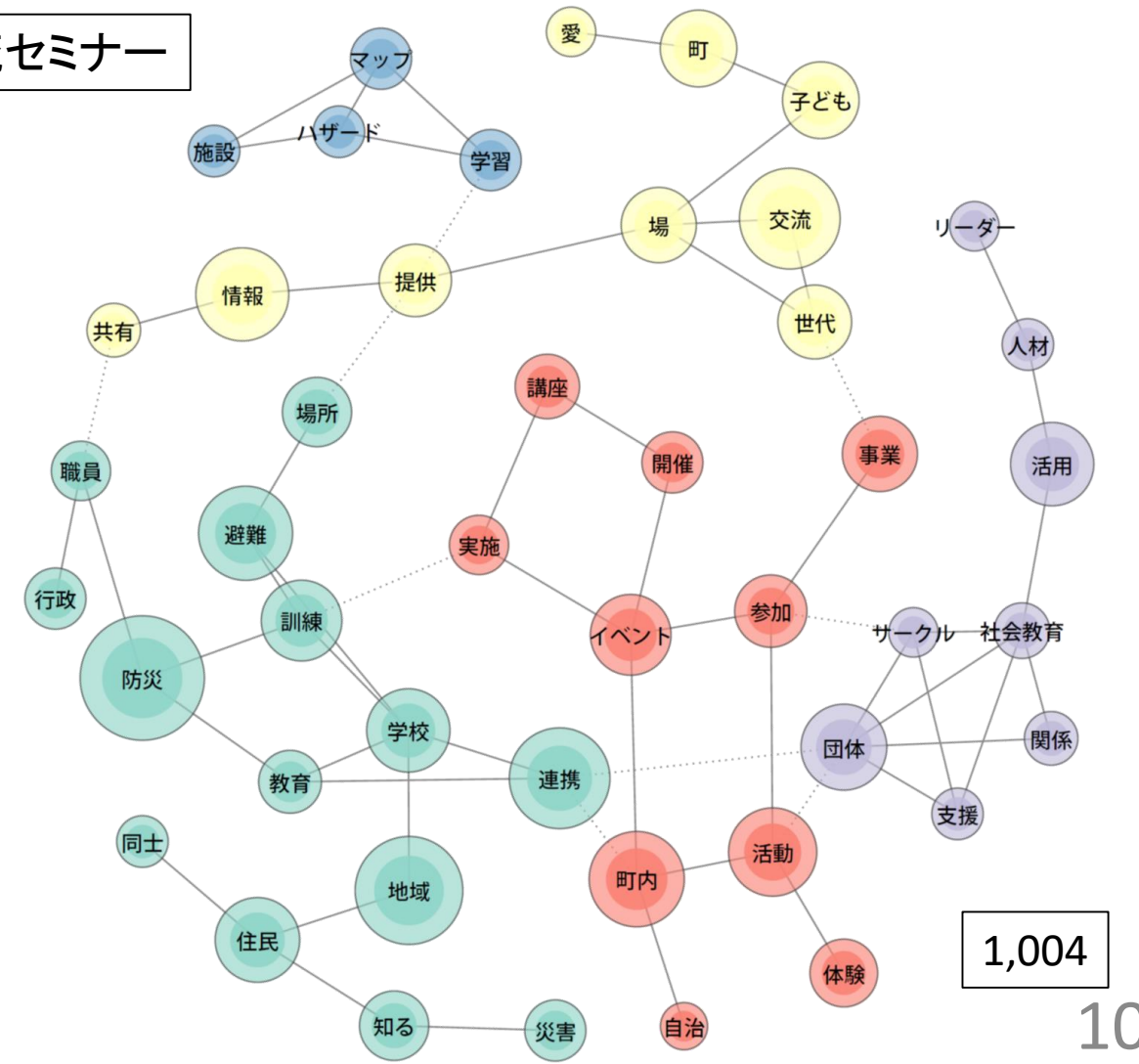
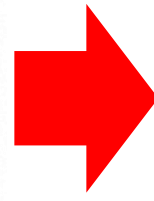
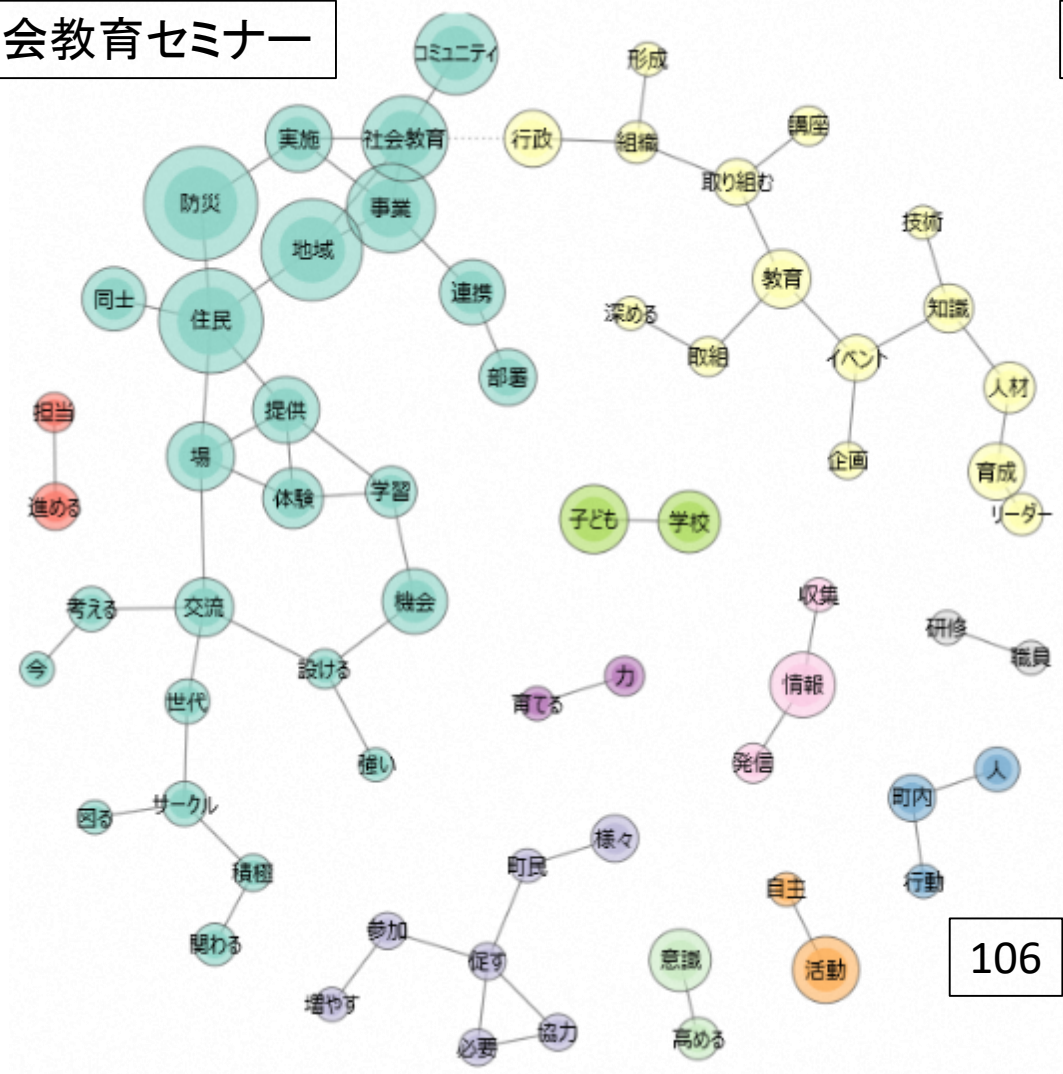




昨年度の研究の結果について(社会教育行政[職員]の役割)

社会教育セミナー

実践交流セミナー



106

1,004

10



昨年度の研究の結果について

北海道社会教育主事会協議会事務局まとめ

つながり・ネットワーク			交流・連携			場・機会づくり			防災意識													
知識・情報			地域愛・地元愛			育成・リーダー			その他													
交流・学びの場・機会の提供	日常のつながり・ネットワークの構築	防災をからめた事業の開発	ふるさと教育・ふるさと学習	世代間交流	学校と地域の連携	行政内連携・情報の共有	情報発信の工夫	人材発掘・人材育成	人材バンクの作成	リーダーの育成	SNS・HPの活用	活躍の場・機会の提供	公民館の活用	人材の活用	地域の魅力の発見・発信	成功体験	地域住民・地元業者との協働	健康増進	地域課題の発掘	働く世代へのアプローチ	広域連携	団体活動の支援



1. 研究テーマ
2. 昨年度の研究
- 3. 今年度・来年度のサブテーマ**
4. 研究の研究テーマ



R02～03 “サブ”テーマ

研究テーマに迫るための「切り口」

地域の未来を担う

自己肯定感・自己有用感の高い

若年層の育成

自己肯定感？

若年層？



“サブ”テーマ設定の視点

1. 現代的課題、地域課題の解決のヒントになること。
2. 行政と地域住民の連携・協働の機会につなげるために地域住民の学習ニーズがあること。
3. 社会教育行政の役割へのつながりが想定されること。



若年層の捉え方

調査名	調査主体	調査目的	対象
我が国と諸外国の若者の意識に関する調査	内閣府	若者の意識の特徴及び問題等	13歳～29歳
若者の生活に関する調査報告書	内閣府	ひきこもりの実態	15歳～39歳
若年者雇用実態調査 (雇用の構造に関する実態調査)	厚生労働省	若年層の雇用実態	15歳～34歳

(参考)

青年会議所	団体の目的: 社会貢献 (役員任期は1年間)	20歳～40歳
-------	---------------------------	---------



若年層の捉え方



若い働き世代・子育て世代

学生

大学生・専門学校生



児童生徒

小学生・中学生
高校生

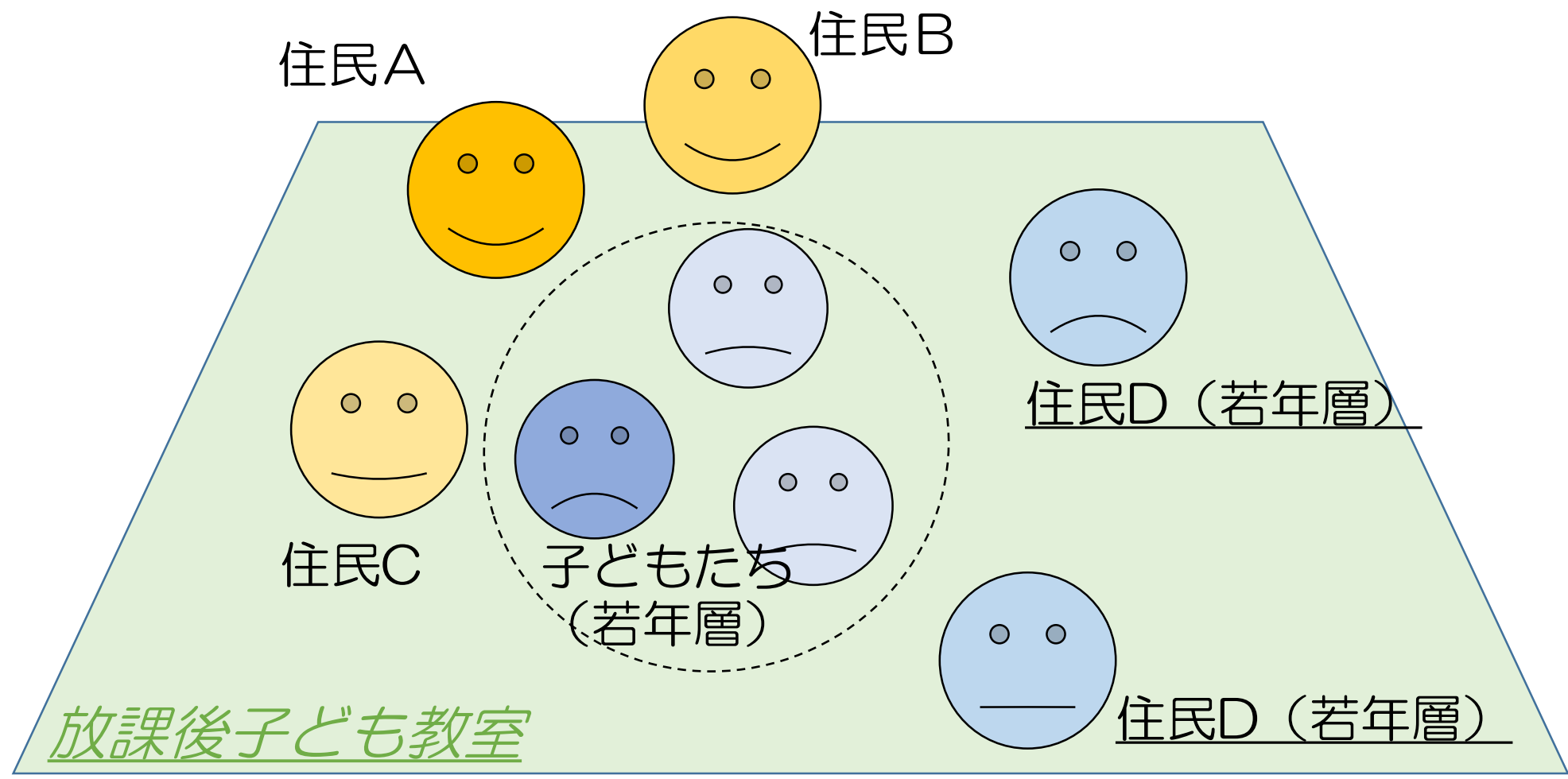




1. 研究テーマ
2. 昨年度の研究
3. 今年度のサブテーマ
- 4. 研究に取り組む視点**

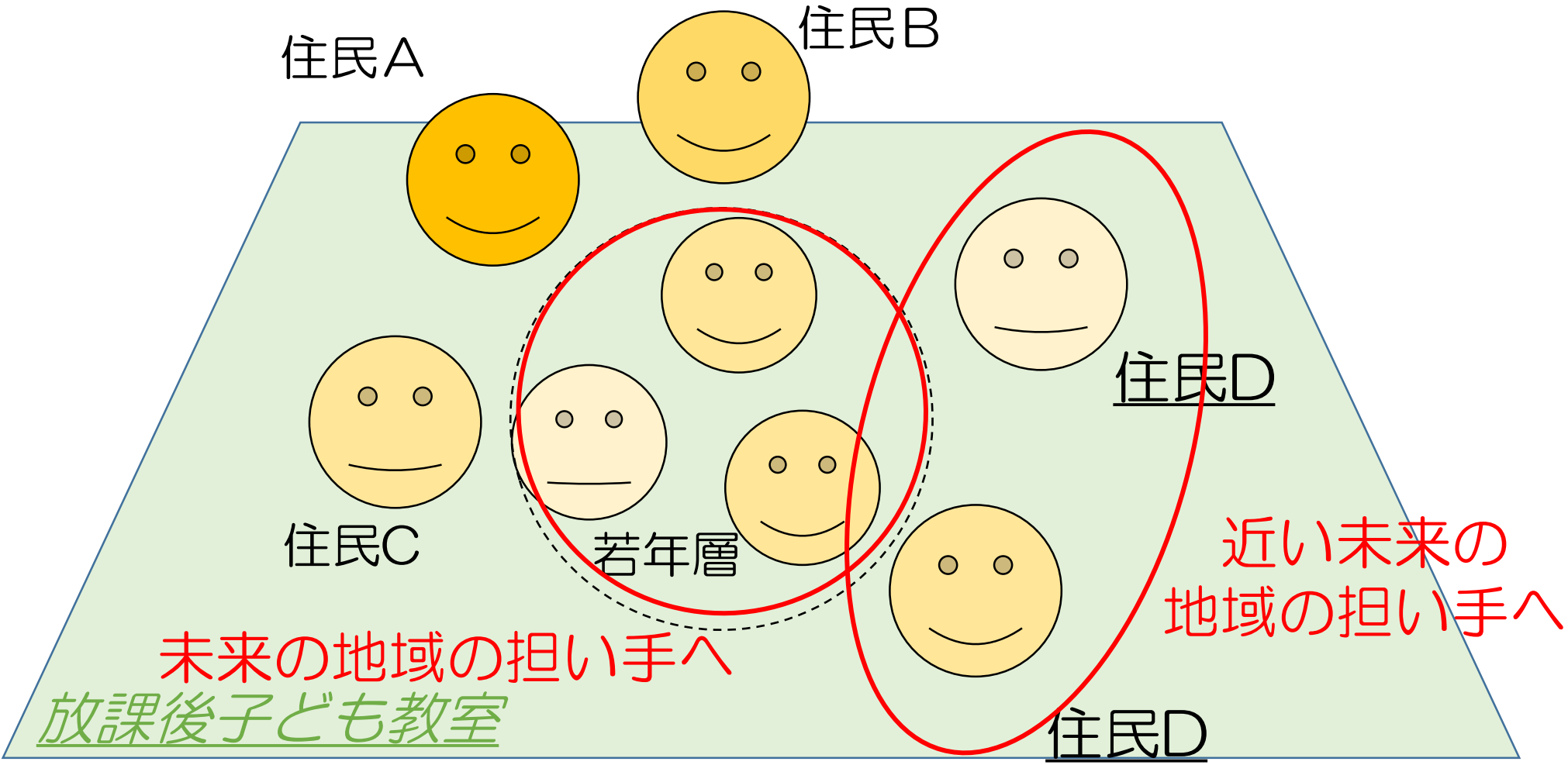


サブテーマから研究テーマへのアプローチ





サブテーマから研究テーマへのアプローチ





令和2年度課題対応型学習活性化セミナー(4会場)を通して

8月 道北会場 地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働
～地域住民の自己肯定感・自己有用感の高め方について～

11月 道南会場 地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働
～地域の未来を担う自己肯定感・自己有用感の高い若年層の育成～

12月 道東会場 地域づくりの担い手育成における社会教育関係職員の役割
～今、求められている「地域の未来を担う人」をつくる社会教育事業とは？～

1月 道央会場 地域づくりの担い手育成に向けた働き世代の積極的な地域参加を
促すために
～活動へ参加する「はじめての一步」につながるための“そそる”情報とは？～



研究に取り組む視点

社会教育事業の
検証

地域住民が参画
する機会の創出

社会的包摂の
推進

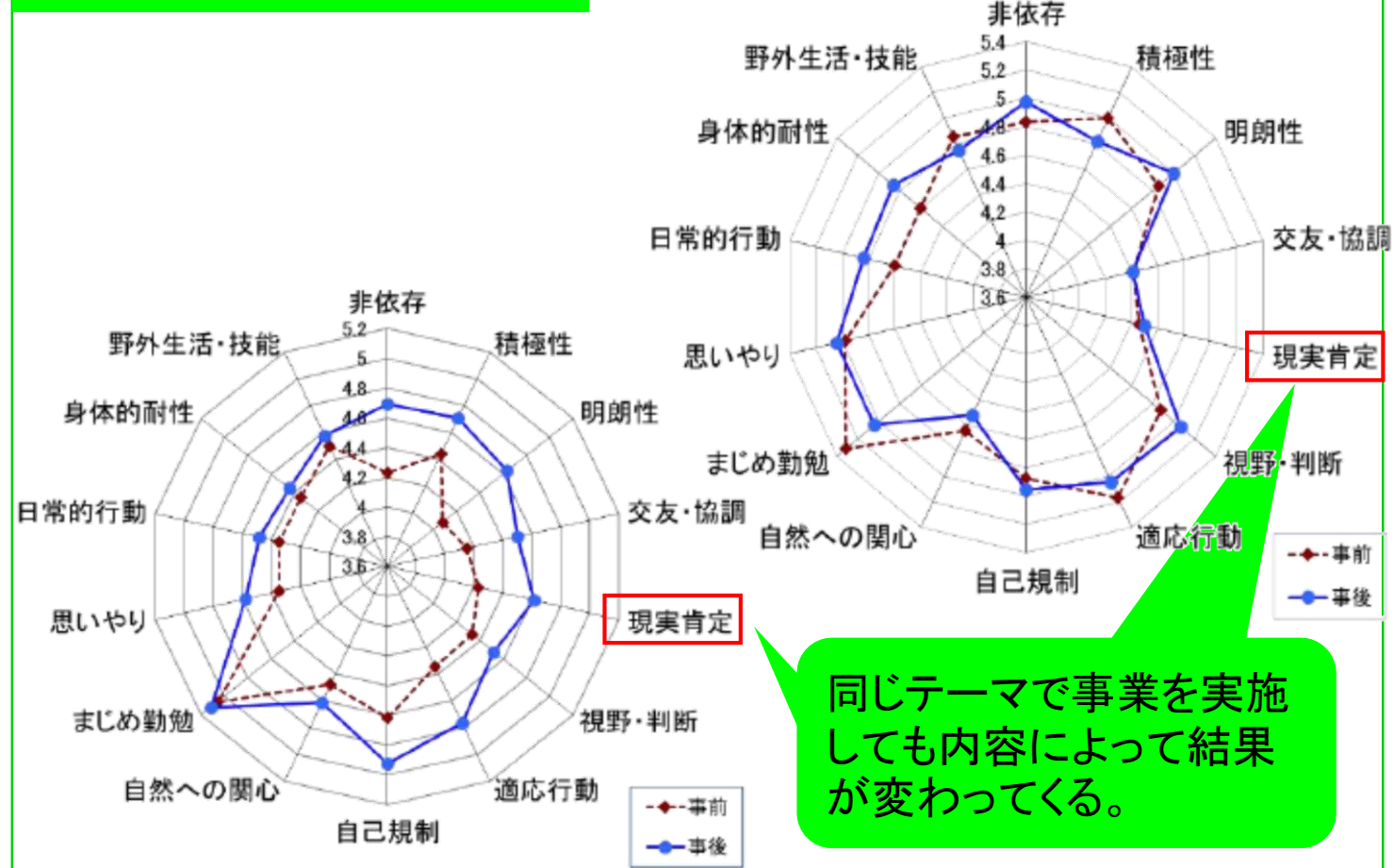
持続可能な
地域コミュニティの形成



社会教育事業の検証

青少年健全育成事業、リーダー育成事業など若年層の自己肯定感を高めるための事業の構築とその評価について追究する。

参考: 事業の検証結果 (IKR)



同じテーマで事業を実施しても内容によって結果が変わってくる。



地域住民が参画する機会の創出

児童生徒の自己肯定感、自己有用感を高めるために**地域学校協働活動**と**学校運営協議会**が効果的に連携する仕組みについて追究する。

参考：地域学校協働本部

地域学校協働活動

放課後
子供教室

地域未来塾

学びによるまちづくり・地域
解決型学習・
郷土学習

家庭教育
支援活動

学校に対する
多様な協力
活動

地域の行事、
イベント、お祭
り、ボランティア
活動等への
参画

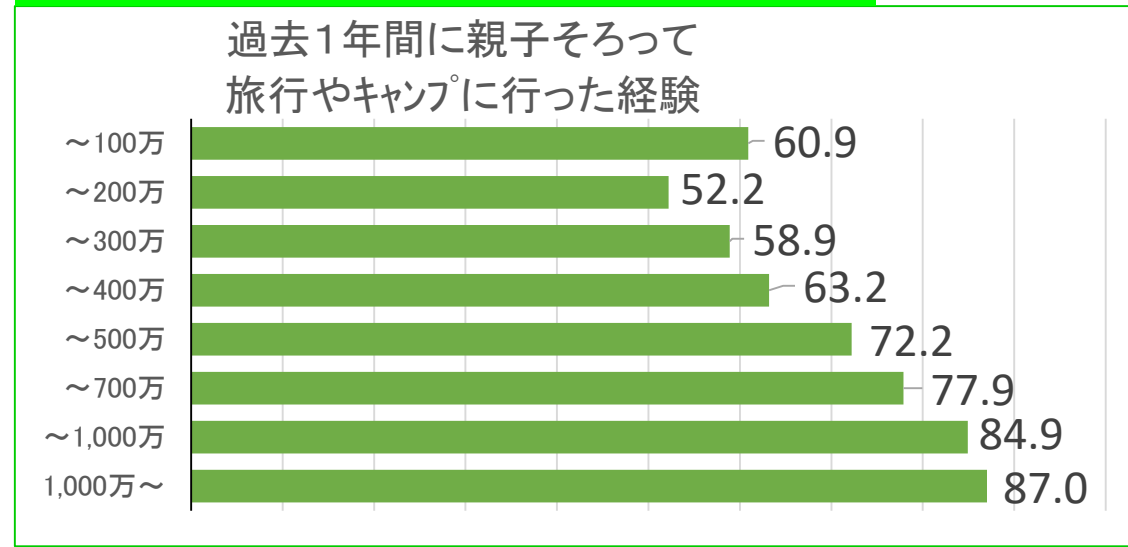
これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動(R2文部科学省)



社会的包摂の推進～ネットワーク型行政の構築～

生活環境、国籍、障害の有無に関係なく、地域の誰もが自己肯定感、自己有用感を高めることができる仕組みについて追究する。

参考：保護者の収入と子どもの体験機会

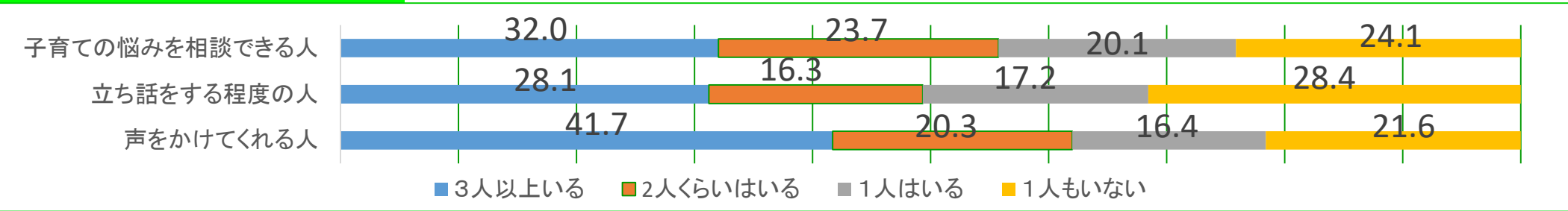


北海道子どもの生活実態調査 (H29北海道保健福祉部)



参考：子育ての相談相手

子育てトレンド調査レポート(H22ベネッセ)





持続可能な地域コミュニティの形成

高校生や青年団体などの若年層を取り込んだ協働の場面での自己肯定感を高める仕組みについて追究する。

参考: 協働の仕組



「協働の仕組～環境課題と地域を見直すプロデュース」環境省



取組紹介～石狩管内社会教育主事会の取組～

働き世代の積極的な地域参加を促す方策

【アンケート結果から】
 設問：活動を始めた「きっかけ」と継続しているモチベーションは何ですか？
 ⇒「きっかけ」最多回答：「活動への参加から」
 ⇒「モチベーション」最多回答：「参加者の様子（笑顔、声、感想）」

アプローチポイント①
 (きっかけづくり)
 世代に合わせた“そそる”情報を発信し、活動へ参加する「はじめの一步」を支援する

Level Up!

Level Up!!

アプローチポイント②
 (使命感、満足感の醸成)
 質の高い事業企画・運営を支援し、更なる楽しさ、使命感、満足感等の醸成を図る

シラン層

そもそも地域で行われている活動を知らない。知っていても興味・関心が無いので参加しない。

オタメシ層

「はじめの一步」を踏み出し、地域の活動に参加してみる。子どもも楽しそうだし地域の人の顔もわかるようになった。参加してよかった。

地域活動への参加

シュタイ層

活動に参加したことにより、人とのつながりができ、使命感を感じてきた。誘われたこともあり、活動を企画・運営する側となり、参加者の笑顔などに達成感を得ながら主体的に活動に参画する。

主体的に地域活動に参画

アプローチポイント①
 世代に合わせた“そそる”情報を発信し、活動へ参加する「はじめの一步」を支援する

若者⇒楽しさ・面白さを共有できる場
アンケートより) 地元になじめるように・学生時代からの続けた活動の延長線上
中堅⇒親子での参加、仕事に生かせる活動の場
アンケートより) 今の子どもが大人になったときに残したい
ベテラン⇒つながり、学びの場
アンケートより) 市民協働の委員会に参加したこと

アプローチポイント②
 質の高い事業企画・運営を支援し、更なる楽しさ、使命感、満足感等の醸成を図る

1. 子どもを巻き込んだ地域事業の企画・運営の助言
アンケートより) 子どもたちの笑顔・生み出した場
 2. 主体的に地域活動を行っている方々と繋がる場の設定
アンケートより) 運営側が自ら楽しんで参加している様子を見せる
- 【団体マネジメント】
- ・強制しないゆるいつながりの中で、ベテラン世代は働き世代を否定せず見守る
 - ・目的をみんなで共有
 - ・参加者と積極的にコミュニケーションを取り、勧誘



確認事項

□事業≠目的

□結果<過程



どうぞよろしく願いいたします。

